

重要! ● No.4のシーンについては「カップリングショット」(87ページ)、No.5のシーンについては「プリショット」(88ページ)をご覧ください。

- シーンに使用されているサンプル画像は本機で撮影されたものではありません。イメージ画像です。
- 被写体の条件によっては、十分な効果が得られなかったり、正しく撮影されない場合があります。
- シーンを選んだ後から【SET】を押し、【◀▶】で撮影したいシーンを選んで【SET】を押すと、シーンを選び直すことができます。
- 選んだシーンの各種設定内容は変更することができますが、シーンを選び直したり、電源を入れ直すと、設定内容は初期状態に戻ります。
- 夜景や花火のシーンなどシャッター速度が遅くなる撮影では、撮影した画像にノイズが発生するため、自動的にノイズ低減処理を行っています。このノイズ低減処理のために、撮影が終了するまでの時間がシャッター速度に比べて長くなります。その間はキー操作を行わないでください。

参考 ● ベストショットモードで電源を入れたとき、約2秒間、操作ガイドと現在選ばれているシーンのサンプル画像が表示されます。



撮影したいシーンを登録する(カスタム登録)

今まで撮影した画像の設定内容をベストショットモードに登録して、呼び出すことができます。呼び出した画像の設定内容と同じ設定で撮影することができます。

1. 【モードダイヤル】を「BS」に合わせます。
 - シーンのサンプル画像が表示されます。

2. 【◀▶】を押して、「新規登録」を表示させます。



3. 【SET】を押します。

4. 【◀▶】を押して、登録したい画像を選びます。



85

5. 【▲▼】で「登録」を選び、【SET】を押します。

- 登録が完了します。
- 撮影ができる状態になります。以降、84ページと同じ操作により、この設定を選んで撮影することができます。



重要! ● 本機では、本機内蔵のシーンのあとに「マイベストショット(カスタム登録したシーン)」の順番でシーンが登録されます。

- 内蔵メモリーをフォーマット(140ページ)すると、カスタム登録したベストショットモードのシーンファイルは消えてしまいますので、その場合は必要に応じてカスタム登録し直してください。

86

参考

- 登録される設定内容は下記の通りです。フォーカスモード、EVシフト、フィルター、測光方式、ホワイトバランス、フラッシュ光量、シャープネス、彩度、コントラスト、フラッシュモード、ISO感度、マニュアル撮影時の絞り値とシャッター速度
- 本機で撮影された画像からのみ設定内容を読み取ることができます。
- 登録可能件数は最大999件となります。
- 各シーンの設定状態はメニューをたどり、各機能の設定内容を表示させることにより、確認できます。
- カスタム登録したシーンのファイル名は、「UP600nnn.JPG (n=0~9)」となります。
- カスタム登録したシーンを消去したい場合は、ベストショットモードでシーンを選ぶときに、カスタム登録したシーンを表示させ、【EX】を押して削除するか、パソコンを使って内蔵メモリー内の「SCENE」フォルダ内から消去したいシーンのファイルを削除してください(166ページ)。

二人で記念撮影をする(カップリングショット)

一面を2つに分けて2回撮影し、その後自動合成して1枚の画像にする機能です。他の人に撮影を頼むことができないときでも、全員揃って記念撮影ができます。この機能はベストショットモード(84ページ)の中にあります。

- 1回目の撮影
撮影者以外を撮影する。



- 2回目の撮影
背景の重なり具合を確認しながら撮影者のみを撮影する。



- 合成



1. 【モードダイヤル】を「BS」に合わせます。

2. 【◀▶】で「カップリングショット」のシーンを選び、【SET】を押します。

3. 最初に【液晶モニター】で【フォーカスフレーム】を左側部分の被写体に合わせます。

- カップリングショットでは、「AFエリア」(61ページ)が自動的に「スポット」になります。



【フォーカスフレーム】

4. 【シャッター】を押して、左側部分を撮影します。

- この撮影で下記の情報が固定されます。フォーカス、露出、ホワイトバランス、ズーム、フラッシュ

87

5. 次に【液晶モニター】上で半透明で表示されている左側部分と、現在の背景が正しく重なるようにフレームを合わせます。

- 【MENU】を押すと、この撮影をキャンセルし、操作3に戻ることができます。



半透明の画像

6. 【シャッター】を押して、右側部分を撮影します。

重要! ● カップリングショットでは、撮影時に内蔵メモリーまたはメモリーカードのどちらかを使用している方のメモリーを一時的に使用します。メモリーの容量が残り少ないと、撮影中にエラー表示が出る場合があります。その場合は不要な画像を消去してから再度撮影してください。

好みの構図で記念撮影をする(プリショット)

プリショット機能は人に撮影を依頼するときに便利な機能です。この機能では一度の撮影で2回の撮影を行います。1回目の撮影で撮影画像を半透明の状態に【液晶モニター】上に表示し、2回目では表示されている半透明の画像を目安に最終的な撮影を行います。2回目に撮影した画像が記録されます。この機能はベストショットモード(84ページ)の中にあります。

- 好みの構図を自分で撮影



- 構図に合わせて他の人に撮影してもらおう



- 2回目だけの画像が記録される



88

1. [モードダイヤル]を「**DS**」に合わせます。
2. [◀▶]で「プリショット」のシーンを選び、[SET]を押します。
3. 最初に仮撮影を行います。
 - この操作で撮影した画像は操作4で半透明で表示されますが、最終的にはカメラに保存されません。
 - この撮影で下記の情報が固定されます。フォーカス、露出、ホワイトバランス、ズーム、フラッシュ
4. 次に[液晶モニター]上で半透明で表示されている背景と、現在の背景が正しく重なるようにフレームを合わせます。
 - [MENU]を押すと、この撮影をキャンセルし、操作3に戻ることができます。
5. 撮影します。
 - この操作で撮影した画像がカメラに保存されます。



半透明の画像

動画を撮影する(ムービーモード)

メモリー容量いっぱいまで音声付き動画を撮影することができます。

- ファイル形式：AVI形式
AVI形式は、Open DML グループが提唱したMotion JPEGフォーマットに準拠しています。
- 画像サイズ：320×240pixels
- 動画ファイルサイズ：約300KB/秒
- 撮影可能なムービーの時間：
 - 一度に撮影可能な最長時間：メモリー容量による
 - 撮影可能なトータル時間：内蔵メモリーで最長約30秒、64MBのSDメモリーカードで最長約3分20秒

89

1. [モードダイヤル]を「**MS**」に合わせます。



撮影時間

2. 撮影する被写体にカメラを向け、[シャッター]を押します。

ムービー録画中

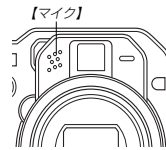


- 残りのメモリーいっぱいになり、動画撮影が続きます。
- 動画撮影中は【液晶モニター】に「残り撮影時間」と「撮影時間」を表示します。
- ムービーモードでは、モードメモリ(100ページ)の「フォーカス方式」の設定にかかわらず、フォーカスモードが自動的にパンフォーカス(64ページ)になります。撮影前であれば、他のフォーカスモードに切り替えることができます。
- 動画撮影中は光学ズームは動作しません。デジタルズームのみ使用できます。[シャッター]を押す前であれば、光学ズームは使用できます。

90

- 動画撮影を途中で終了させたいときは、もう一度[シャッター]を押してください。
3. 動画撮影が終了したら、動画ファイルがカメラのメモリーに保存されます。

- 重要!**
- フラッシュは発光しません。
 - 本機では音声も同時に記録されますので、次の点に注意してください。
 - 一指などで【マイク】をふさがないようにご注意ください。
 - 記録の対象がカメラから遠くに離れると、きれいに録音されません。
 - 撮影中にボタン操作をすると、操作音が入ることがあります。
 - 音声はモノラルで録音されます。
 - ムービーモードに切り替えると、モードメモリ(100ページ)の「フォーカス方式」の設定にかかわらず、自動的にフォーカスモードがパンフォーカス(64ページ)になります。



- フォーカスモード(59ページ)をオートフォーカスモードかマクロモード(**M**)にすると、自動的にピント調整を行います。その際に「カタカタ」という動作音が入ります。ピント調整音が気になる場合は、パンフォーカスのまま撮影するか、あらかじめマニュアルフォーカスモード(MF)でピントを調整したうえで、撮影することをおすすめします。
- フォーカスモードをパンフォーカスモード(PF)、マニュアルフォーカスモード(MF)、無限遠モード(∞)にすると「カタカタ」という動作音は入りません。ただし、マニュアルフォーカスモードでは撮影中のピント調整ができなくなりますので、撮影前にピントを合わせてください。
- 使用するメモリーカードによっては、記録時間がかかるため、コマ落ちする場合があります。このとき、**REC**と**DISP**が点滅します。

音声を記録する

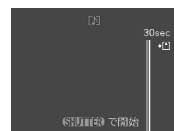
画像に音声を加えて記録する(音声付き静止画撮影モード)

画像撮影後に、音声を録音することができます。

- 画像形式：JPEG形式
画像を効率よく圧縮するための画像フォーマットです。拡張子は“.JPG”となります。
- 録音形式：WAVE/ADPCM記録形式
音声を録音するためのWindows標準フォーマットです。拡張子は“.WAV”となります。
- 録音時間：1画像につき最長約30秒間
- 音声ファイルサイズ：約120KB(約4KB/秒で30秒間録音時)

91

1. RECモードにして[MENU]を押します。
2. “撮影設定”タブ→“音声付静止画”と選び、[▶]を押します。
3. [▲][▼]で“入”を選び、[SET]を押します。
 - 音声付き静止画撮影モードになり、**REC**が表示されます。
 - “切”を選ぶと、通常の静止画撮影モードになります。



録音可能時間

4. [シャッター]を押して、画像を撮影します。
 - 画像を撮影した後、音声録音スタンバイ状態になります(今、撮影した画像が表示されます)。
 - 音声録音スタンバイ状態で[MENU]を押すと、音声録音を解除することができます。
5. [シャッター]を押して、音声を録音します。
 - 録音中は緑の【動作確認用ランプ】が点滅します。
 - [DISP]を押して【液晶モニター】をオフに設定しても、音声録音時には【液晶モニター】は点灯します。

6. [シャッター]を押すか約30秒経つと、録音を終了します。

- 重要!**
- 音声付き静止画撮影モードで撮影できないのは、次の通りです。セルフタイマー撮影(×3)、連写、オートブラケティング撮影、カップリングショット

音声のみ記録する(ボイスレコードモード)

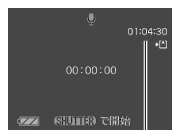
音声のみを録音することができます。

- 録音形式：WAVE/ADPCM記録形式
音声を録音するためのWindows標準フォーマットです。拡張子は“.WAV”となります。
- 録音時間：内蔵メモリー使用時で最長約40分
- 音声ファイルサイズ：約120KB(約4KB/秒で30秒間録音時)

92

1. 【モードダイヤル】を“**Q**”に合わせます。

- ボイスレコードモードになり、**Q**が表示されます。



録音可能時間

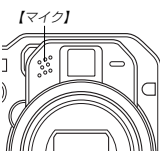
2. 【シャッター】を押して、音声を録音します。

- 録音中は【液晶モニター】に「録音時間」を表示します。また、緑の【動作確認用ランプ】が点滅します。
- 録音中に【DISP】を押すと、【液晶モニター】が消灯します。
- 録音中に【SET】を押すと、録音位置を記憶したマークを付けることができます。

3. 【シャッター】を押すかメモリーがいっぱいになるか、または電池が消耗すると録音を終了し、音声を記録します。

■ 音声記録時のご注意

- カメラ前面部にある【マイク】を必ず対象に向けてください。
- 指などで【マイク】をふさがないようにご注意ください。



- 録音の対象がカメラから遠く離れると、きれいに録音されません。
- 録音中に【電源ボタン】を押すか【モードダイヤル】を回すと、録音は中止となり、その時点までの音声記録されます。
- 撮影済みの静止画像に、後から音声を追加(アフターレコーディング機能)することができます。また、録音済みの音声を記録し直すこともできます(121ページ)。

各種機能を設定する

RECモードにおいて、下記の機能を設定することができます。

- ISO感度
- オートフォーカス方式(AF方式)
- 測光方式
- 色彩効果(フィルター)
- シャープネス
- 彩度
- コントラスト
- グリッド表示のオン/オフ
- 撮影レビュー
- 左右キー設定
- 各種設定の記憶(モードメモリ)
- 各種設定のリセット

- 参考**
- 上記以外に、次の機能も変更できます。操作方法については各ページをご覧ください。
 - サイズ(57ページ)
 - 画質(58ページ)
 - ホワイトバランス(66ページ)
 - AFエリア(61ページ)
 - 音声付静止画(91ページ)
 - フラッシュ光量(55ページ)
 - デジタルズーム(52ページ)

ISO感度を変える

暗い場所で撮影するときやシャッター速度を速くしたいとき、ISO感度が変更できます。使用目的に応じてISO感度を設定してください。

- ISO感度とは、光に対する感度をISO(写真フィルムの感度単位)の数値で表したものです。数値が大きいかほど感度が高くなり、暗い場所での撮影に強くなります。

1. RECモードにして【MENU】を押します。

2. “撮影設定”タブ→“ISO 感度”と選び、【▶】を押します。

3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。

感度が低い	ISO 50	: ISO 50相当
	ISO 100	: ISO 100相当
	ISO 200	: ISO 200相当
感度が高い	ISO 400	: ISO 400相当
	オート	: 撮影条件により自動調整します。

- 重要!**
- 同じ撮影条件下でISO感度を上げるとシャッター速度は早くなりますが、画像のノイズが増加しますので、きれいに撮りたいときはなるべくISO感度を下げてください。
 - ISO感度を上げてフラッシュ撮影すると、近くの被写体の明るさが適正にならない場合があります。

- 参考**
- キーカスタマイズ機能を使うと、【◀】【▶】でISO感度が変更できるように切り替えられます(99ページ)。

オートフォーカス方式(AF方式)を変える

オートフォーカス方法を変更できます。

1. RECモードにして【MENU】を押します。

2. “撮影設定”タブ→“AF方式”と選び、【▶】を押します。

3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。

ハイブリッド: 位相差センサー方式とコントラスト方式を併用した方式で、オートフォーカスを行います。通常はハイブリッドに設定してお使いください。

コンティニアス: 常に測距をし、レンズ移動によるピント合わせをし続けることにより、高速なオートフォーカスを行います。

コントラスト: コントラスト方式でオートフォーカスを行うことにより、【位相差センサー】が隠れてオートフォーカス動作ができなくなってしまうことを防ぎます。

- 重要!**
- オートフォーカス方式を“コンティニアス”に切り替えると、常時レンズが動き続けるため、電池寿命は“ハイブリッド”よりも短くなります。
 - ワイドコンバーター/テレコンバーター/クローズアップレンズなどの外部レンズを装着して撮影するときには、必ずオートフォーカス方式を“コントラスト”に設定してください(107ページ)。なお、オートフォーカス方式を“コントラスト”に設定すると、オートフォーカス動作は“ハイブリッド”よりも遅くなります。

測光方式を変える

測光方式を変更できます。

1. RECモードにして【MENU】を押します。

2. “撮影設定”タブ→“測光方式”と選び、【▶】を押します。

3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。

☒ マルチ(マルチパターン):

画面の全体を分割し、それぞれのエリアについて測光します。測光結果の明暗/パターンによって撮影環境をカメラが自動的に判断し、露出を決定します。さまざまなシーンで失敗の少ない露出が得られます。



☑ 中央重点:

中央部を重点的に測光します。カメラ任せではなく、自分である程度露出をコントロールしたいときに使います。



☐ スポット:

センターのごく狭い部分を測光します。周囲の影響を受けずに、写したい被写体に露出を合わせることができます。



- 重要!**
- “マルチ”設定時にEVシフト(65ページ)を行うと、測光方式が自動的に“中央重点”に切り替わります。EVシフトを“0.0”に戻すと、元の測光方式に戻ります。また、マニュアル露出(70ページ)に切り替えたときも同様に“マルチ”は“中央重点”に切り替わります。

色を変える(フィルター)

フィルター機能を使用して、撮影時の画像の色彩効果を変更することができます。

1. RECモードにして【MENU】を押します。

2. “撮影設定”タブ→“フィルター”と選び、【▶】を押します。

3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。

切/白黒/セピア/赤/緑/青/黄/ピンク/紫

- 参考**
- フィルター機能を使うと、色彩効果用のレンズフィルターを装着して撮影したような画像になります。

シャープネスを変える

撮影される画像の鮮鋭度を設定できます。

1. RECモードにして[MENU]を押します。
2. "撮影設定"タブ→"シャープネス"と選び、[▶]を押します。
3. [▲][▼]で設定内容を選び、[SET]を押します。
柔らかく ソフト：鮮鋭度が低くなります。
標準：標準の鮮鋭度になります。
クッキリ ハード：鮮鋭度が高くなります。

彩度を変える

撮影される画像の色の鮮やかさを設定できます。

1. RECモードにして[MENU]を押します。
2. "撮影設定"タブ→"彩度"と選び、[▶]を押します。
3. [▲][▼]で設定内容を選び、[SET]を押します。
色が淡く 低：色の鮮やかさが低くなります。
標準：標準の彩度になります。
色が濃く 高：色の鮮やかさが高くなります。

97

コントラストを変える

撮影される画像の明暗の差を設定できます。

1. RECモードにして[MENU]を押します。
2. "撮影設定"タブ→"コントラスト"と選び、[▶]を押します。
3. [▲][▼]で設定内容を選び、[SET]を押します。
平坦 低：明暗が平坦になります。
標準：標準のコントラストになります。
クッキリ 高：明暗がクッキリします。

98

グリッドを表示する

撮影時、[液晶モニター]に方眼を表示します。カメラを水平や垂直に保つのに便利です。



1. RECモードにして[MENU]を押します。
2. "撮影設定"タブ→"グリッド表示"と選び、[▶]を押します。
3. [▲][▼]で設定内容を選び、[SET]を押します。
入：グリッドを表示します。
切：グリッドは表示しません。

撮影した画像を確認する(撮影レビュー)

撮影した直後に[液晶モニター]で撮影した画像を確認することができます。

1. RECモードにして[MENU]を押します。
2. "撮影設定"タブ→"撮影レビュー"と選び、[▶]を押します。
3. [▲][▼]で設定項目を選び、[SET]を押します。
入：撮影直後に[液晶モニター]に撮影した画像が約1秒間表示されます。
切：撮影した画像は表示されません。

左右キーに機能を割り当てる(キーカスタマイズ)

[◀][▶]に、5つの中のどれか1つの機能の操作を割り当てることにより、操作しやすくすることができます。

1. RECモードにして[MENU]を押します。
2. "撮影設定"タブ→"左右キー設定"と選び、[▶]を押します。
3. [▲][▼]で設定内容を選び、[SET]を押します。
 - [◀][▶]で設定した機能が操作できるようになります。
EVシフト：露出値(EV値)が補正できます(65ページ)。
ホワイトバランス：ホワイトバランスが変更できます(66ページ)。
ISO感度：ISO感度が変更できます(94ページ)。
測光方式：測光方式が変更できます(96ページ)。
AFエリア：オートフォーカスの測定範囲(AFエリア)が変更できます(61ページ)。
切：[◀][▶]に操作を割り当てません。

参考 ● 初期設定は"EVシフト"の操作となります。

99

各種設定を記憶させる(モードメモリ)

モードメモリとは、電源を切ったときでも直前の状態を記憶しておく機能です。電源の入/切で毎回設定をし直す手間がはぶけます。

●モードメモリで設定できる機能

フラッシュ、フォーカス方式、ホワイトバランス、ISO感度、AFエリア、測光方式、連写/BKT、フラッシュ光量、デジタルズーム、MF位置、ズーム位置

1. RECモードにして[MENU]を押します。
2. [◀][▶]で"モードメモリ"タブを選びます。
3. [▲][▼]で設定したい機能を選び、[▶]を押します。
4. [▲][▼]で設定内容を選び、[SET]を押します。
入：電源を切ったときにその時点の設定を記憶します。
切：電源を切ったときに初期設定に戻ります。

機能	入	切
フラッシュ	最後のモード	オート
フォーカス方式*1		オート
ホワイトバランス		オート
ISO感度		オート
AFエリア		スポット
測光方式		マルチ
連写/BKT		1枚撮影
フラッシュ光量		標準
デジタルズーム		入
MF位置		MFに切り替える前の位置
ズーム位置*2	ワイド端	

*1 ムービーモードでは設定を記憶することができません。自動的にPF(パンフォーカス)に戻ります。
*2 ズーム位置では光学ズームの位置のみ記憶します。

重要! ● ベストショットモードでは、シーンの選択をしたり、電源のオン/オフを行うと、モードメモリが入/切のどちらに設定されていても、撮影設定("ズーム位置"以外)は各シーンの初期設定値となります。
● ムービーモードでは、モードメモリの入/切の設定に関わらず、フラッシュは常に [ON] (発光禁止) に設定されます。

100

各種設定をリセットする

本機の設定内容を初期値に戻すことができます。初期値については「メニュー一覧表」(184ページ)をご覧ください。

1. RECモードまたはPLAYモードで[MENU]を押します。
2. “設定”タブ→“リセット”を選び[▶]を押します。
3. [▲][▼]で“リセット”を選び、[SET]を押します。
 - リセットしない場合は“キャンセル”を選びます。

【EX 画】を使って素早く設定する(EXメニューによるショートカット)

[EX 画]を押して表示されるEXメニュー画面から、「ホワイトバランス」「ISO感度」「測光方式」「AFエリア」の4つの項目を素早く設定することができます。

1. RECモードで[EX 画]を押します。



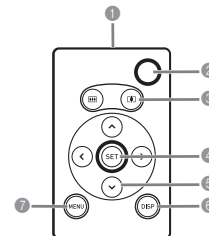
2. [◀][▶]で変更したい項目を選択し、[▲][▼]で設定したい内容を次々と選んでいきます。
3. 設定後に[SET]を押すと、EXメニュー画面から抜けます。
 - 設定項目/設定内容については、下記のページをご覧ください。
 - ホワイトバランスを変える(66ページ)
 - ISO感度を変える(94ページ)
 - 測光方式を変える(96ページ)
 - オートフォーカスの測定範囲(AFエリア)を変える(61ページ)

101

参考 • [EX 画]を押し続けた状態で[◀][▶]により変更したい項目を選択し、[▲][▼]で設定したい内容を選んだ後に[EX 画]から指を離しても、同じように設定することができます。

カードリモコンを使って撮影する

本機は付属のカードリモコンを使って撮影することができます。シャッター速度が遅い場合や望遠での撮影で三脚を併用することで、手ぶれを防ぐことができます。



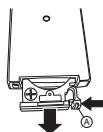
- 1 リモコン発光部
- 2 シャッターボタン
- 3 ズームボタン
- 4 SETボタン
- 5 コントロールボタン(▲▼◀▶)
- 6 DISPボタン
- 7 MENUボタン

102

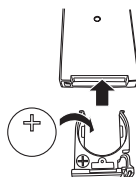
電池を入れる

リモコンをご使用になる前に、リモコンにリチウム電池(CR2025)を入れてください。

1. ④を矢印の方向に押しながら、電池ホルダーをリモコンから抜き取ります。



2. 電池の表面を乾いた布でよく拭いてから、(+)側を上にして電池ホルダーに取り付けます。



3. 電池ホルダーをリモコンに差し込みます。

重要! • 本機で使用しているボタン電池を取り外した場合は、誤って電池を飲むことがないようにしてください。特に小さなお子さまにご注意願います。
• ボタン電池は小さなお子さまの手の届かない所へ置いてください。万一、お子さまが飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。

103

カードリモコンを使う前に

カードリモコンを使う前に、必ず下記の準備をしてください。

1. RECモードにして、[Ⓢ 画]を押してリモコン動作オンを選びます。

リモコン動作オン



• リモコン動作オンになると、【液晶モニター】に [Ⓢ] または “ ” が表示されます。

- Ⓢ : リモコンを操作すると、すぐにカメラが動作します。
- ” : リモコンを操作すると、カメラが“セルフタイマー2秒”を選択したときと同じ動作をします。

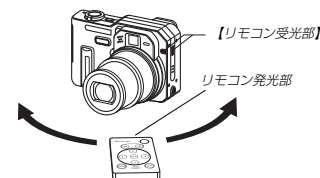
重要! • リモコンを使って自分撮りをするときは [Ⓢ] に設定すると、リモコンを構えている姿が写らずに便利です。
• PLAYモード、ボイスレコードモードでは、セルフタイマーの設定に関係なく、常にリモコンが使えます(カメラ側が信号を受け付けます)。

104

カードリモコンを使う

リモコン発光部をカメラの【リモコン受光部】に向けて操作してください。カードリモコンのボタン操作は、カメラ本体でのボタン操作と同じとなります。

- カードリモコンが使用できる距離は、カメラ正面から約5m、カメラ正面の右横から約1mです。



重要! • 次のような状態では、カードリモコンが使用できる距離が短くなります。
- カメラの【リモコン受光部】に対して、斜めに使用しているとき
- カメラ本体に強い光が当たっているとき
- カードリモコンの電池が消耗しているとき

- カードリモコンのシャッターボタンでは、カメラ本体の【シャッター】半押し操作はできません。シャッターボタンを押すと、ピントを合わせた後、すぐに撮影します。
- カードリモコンを使用して通常連写/高速連写を行う場合は、リモコンのシャッターボタンを押し続けてください。
- リモコン信号の受信状態が悪くなったり、リモコンの電池が消耗してくると、連写やオートブラケティング撮影が途中で終了してしまうことがあります。
- カードリモコンを使用してバルブ撮影を行う場合は、リモコンのシャッターボタンを1回押すと露光を開始し、もう1回押すと露光を終了します(カメラ本体でバルブ撮影を行う場合は【シャッター】を押し続けている間、露光を続けます)。カメラ本体とリモコンでは操作の仕方が異なりますので、ご注意ください。
- コンバージョンレンズ装着時は、カメラ前面の【リモコン受光部】をコンバージョンレンズが覆ってしまうので、リモコンをカメラ側面の【リモコン受光部】に向けて操作してください(107ページ)。

外部フラッシュを接続して撮影する

本機は市販の外部フラッシュを接続することができます。内蔵フラッシュより大きなガイドナンバー(明るい)のフラッシュを使用することにより、内蔵フラッシュの届かない遠くの被写体を照らすことができます。

内蔵フラッシュのガイドナンバー：8 (ISO 100/m)

使用できる外部フラッシュの条件

下記の条件を備えた市販のフラッシュを使用することができます。

- 調光機能(AUTO機能)付き。
- 閃光時間が1/1000秒より短いもの。
- 照射角度が35mmフィルム換算で焦点距離33mmのレンズをカバーするもの(ワイドコンバーター非装着時)。

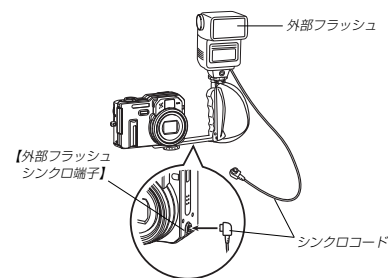
- 重要!**
- 閃光時間の長いものはフラッシュの性能が十分に発揮できない場合があります(リングフラッシュなど)。
 - フラッシュによっては、デジタルカメラ本体と同等の絞り値とISO感度に設定できない場合があります。この場合は設定値に近い値に設定し、外部フラッシュやデジタルカメラの絞りを調整し、試し撮りをして、適正な明るさになるように設定値を選択してください。

105

外部フラッシュの接続

重要! 外部フラッシュの取り付け、取り外しの際には、必ず外部フラッシュの電源とデジタルカメラの電源は切ってください。フラッシュが誤発光することがあります。

1. シンクロコードを【外部フラッシュシンクロ端子】に接続します。



- デジタルカメラに外部フラッシュを取り付ける場合は、市販の三脚穴に固定可能なグリッパ付きブラケットをお買い求めください。

106

重要! 外部フラッシュは【外部フラッシュシンクロ端子】に接続していると強制的に発光します。フラッシュを使用しないときは、シンクロコードを本機からははずすか、外部フラッシュの電源スイッチを切ってください。

- 外部フラッシュの発光量は外部フラッシュ側で決定されます。デジタルカメラでは調整できません。撮影後【液晶モニター】で確認した露出が思わしくない場合は、外部フラッシュやデジタルカメラの設定値を調節して、撮影し直してください。
- 近距離での撮影では露出がオーバーになる場合があります。外部フラッシュの絞りやISO感度を調整するか、デジタルカメラの絞りやISO感度を調整するか、または内蔵フラッシュで撮影してください。
- フラッシュモードが☑(発光禁止)以外に設定されているときは内蔵フラッシュも発光します。
- デジタルカメラの表示している絞り(F)値は、光学ズームがワイド端(1倍)のときの値です。望遠側にするとレンズは多少暗くなります。光学ズーム使用時は必要に応じて外部フラッシュの絞りやISO感度を調整するか、デジタルカメラの絞りを調整してください。
- ズームフラッシュを使用する場合、フラッシュの照射角度は焦点距離33mm以下に設定することをおすすめします。

コンバージョンレンズ/クローズアップレンズやフィルターを取り付けて撮影する

本機は別売のコンバージョンレンズアダプター(LU-60A)にセットされているテレコンバーターアダプターまたはワイドコンバーターアダプターを取り付けることにより、推奨のコンバージョンレンズ/クローズアップレンズや市販のフィルターを使用して撮影することができます。

- 推奨のコンバージョンレンズ/クローズアップレンズは、次のキヤノン(株)製の製品のみとなります。

●望遠撮影用

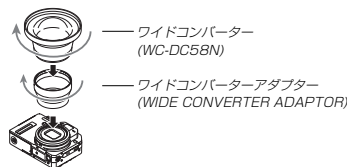
焦点距離：デジタルカメラ本体の焦点距離の1.5倍
テレコンバーター前面から被写体までの距離が1m~∞の撮影が可能(ズームをテレ側にして使用した場合)。
キヤノン(株)製テレコンバーター TC-DC58



107

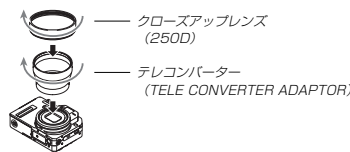
●広角撮影用

焦点距離：デジタルカメラ本体の焦点距離の0.7倍
キヤノン(株)製ワイドコンバーター WC-DC58N



●マクロ撮影用

マクロモードにて、クローズアップレンズ前面から被写体までの距離が6cm~25.1cmの撮影が可能(ズームをワイド端にして使用した場合)。
キヤノン(株)製クローズアップレンズ 250D(58mm)



108

2. カメラの電源を入れ、カメラを次のように設定します。

露出モード：Mモード(マニュアル露出)

シャッター速度は1/60秒程度、絞りは用途に合わせて設定してください。

- フラッシュの光が届かない部分をできるだけ明るく撮影したい場合は、デジタルカメラの絞りを開放(F2.8)に設定してください。

ホワイトバランス：☑(太陽光)

フラッシュモード：☑(発光禁止)

3. 外部フラッシュの電源を入れ、外部フラッシュ側の設定を、デジタルカメラで設定した絞り(F)値(70ページ)とデジタルカメラの感度(ISO50相当)に近い値に合わせます。

- 外部フラッシュのオート絞り(F)値やISO感度を本機の条件に近い設定をしても、撮影条件によっては適正な露出にならない場合があります。このような場合は外部フラッシュ側のオート絞り(F)値がISO感度の値などを調整してください。または、デジタルカメラの絞りを調整してください。

コンバージョンレンズ/クローズアップレンズを取り付ける

コンバージョンレンズを取り付けることにより、さらなる望遠撮影や広角撮影ができます。また、クローズアップレンズを取り付けることにより、より近接のマクロ撮影ができます。

- 電源を切り、カメラ本体のレンズ周辺部に取り付けられているレンズリングを取り外します。
- 別売のテレコンバーターアダプターまたはワイドコンバーターアダプターのいずれかを取り付けます。
- コンバージョンレンズまたはクローズアップレンズを取り付けます。

重要! コンバージョンレンズ/クローズアップレンズを取り付けると、本機の【位相差センサー】がケラレ(光線がさえぎられることによる黒い影)の影響で正しく動作しない場合がありますので、撮影する前に「オートフォーカス方式(AF方式)を変える」(95ページ)を参照して、オートフォーカス方式(AF方式)を必ず「コントラスト」に設定してください。

■ コンバージョンレンズ/クローズアップレンズ使用時のご注意

- コンバージョンレンズ/クローズアップレンズを使用するときは、必ず指定のテレコンバーターアダプターまたはワイドコンバーターアダプターを使用してください。
- コンバージョンレンズ/クローズアップレンズを使用するときは、レンズに付属の取扱説明書もあわせてお読みください。
- コンバージョンレンズ/クローズアップレンズを取り付けてもファインダー内の画角は変わりませんので、撮影するときは【液晶モニター】をお使いください。また、【ファインダー】を使うとファインダーの一部にケラレ(光線がさえぎられることによる黒い影)が生じます。
- コンバージョンレンズ/クローズアップレンズを取り付けると、レンズのケラレの影響で、内蔵フラッシュ光が被写体に正しく到達しない場合があります。
- コンバージョンレンズ/クローズアップレンズを使用する場合は、フラッシュモードを [OFF] (発光禁止)にするか、外部フラッシュをご使用ください(53、105ページ)。
- テレコンバーターは、フォーカスモードを「オートフォーカス」にしてお使いください(60ページ)。
- テレコンバーターは光学ズームを広角側にして使用するとケラレが生じますので、望遠側でご使用ください(51ページ)。
- テレコンバーター使用時は手ぶれが発生しやすいので、必ず市販の三脚をご使用ください。
- ワイドコンバーターは、フォーカスモードを「オートフォーカス」または [M] (マクロモード)にしてお使いください(60ページ)。

- ワイドコンバーターは性質上、画像に歪みを生じることがありますので、ご注意ください。
- クローズアップレンズは、必ずフォーカスモードを [M] (マクロモード)にしてお使いください(59ページ)。他のフォーカスモードではピントが合いません。

■ 光学ズーム機能に関するご注意

- ワイドコンバーターを使用したときは、光学ズーム機能によりせり出したカメラ本体のレンズがワイドコンバーターに当たり故障の原因となるため、光学ズームができません。

重要! ● コンバージョンレンズを使用しない場合は、必ず付属のレンズリングをカメラ本体に取り付けてください。付属のレンズリングを取り付けないと、ワイドコンバーターを取り付けていない状態でも、光学ズームができなくなります。

109

フィルターを取り付ける

市販の口径φ58mmのフィルターを取り付けて撮影することができます。

- 重要!** ● フィルターを使用するときは、必ず指定のテレコンバーターアダプターを使用してください。テレコンバーターアダプターを使わないと、せり出したレンズがフィルターに当たり故障の原因となります。
- フィルターを使用するときは、フィルターに付属の取扱説明書もあわせてお読みください。
 - フィルターによっては次のようなことがあります。ご確認のうえご購入ください。
 - ー 画面の周辺にケラレが生じる。
 - ー オートフォーカス、およびフラッシュの性能が十分に発揮できない。
 - ー 銀塩カメラと同様の効果が得られない。
 - フィルターを2枚以上重ねて使用しないでください。
 - 市販のレンズフードを使用すると、画面の周辺にケラレが生じます。

110

再生する

本機は【液晶モニター】を備えていますので、記録されているファイルの本機だけで確認することができます。

基本的な再生のしかた

記録されているファイルを順次送ったり戻したりしながら見るすることができます。

1. 【電源ボタン】を押して、電源を入れます。

- 【液晶モニター】に画像またはメッセージが表示されます。



2. 【モードダイヤル】を [P] に合わせます。

- PLAYモードになり、再生できる状態になります。



3. $\text{[◀]}[\▶]$ でファイルを見ていきます。



- ▶ を押す：進みます。
- ◀ を押す：戻ります。

参考

- $\text{[◀]}[\▶]$ を押し続けると、ファイルは早送りされます。
- 初めに表示される画像は簡易画像のため、粗い表示になっていますが、すぐ後に精細な画像が表示されます。ただし、他のデジタルカメラからコピーした画像は、この限りではありません。

111

再生する

音声付き画像を再生する

音声付きの画像(🔊)が表示される画像)を見るときは、下記のように操作してください。

1. PLAYモードにして、 $\text{[◀]}[\▶]$ で音声付き画像を表示させます。

2. 【SET】を押します。

- 画像に録音された音声スピーカーから再生されます。



- 音声再生中に、次のような操作ができます。
 - 音声を早戻し/早送りする $\text{[◀]}[\▶]$ を押し続ける
 - 再生と一時停止を切り替える [SET] を押す
 - 音量を調整する $\text{[▲]}[\▼]$ を押す
 - 再生を中断する [MENU] を押す

重要! ● 音声付き画像の音量調整は、再生/一時停止中に可能です。

112

画像を拡大して表示する

撮影した画像を8倍まで拡大して表示させることができます。

1. PLAYモードにして、 $\text{[◀]}[\▶]$ で拡大したい画像を表示させます。

2. 【ズームレバー】を [Q] 側にスライドさせて、画像を拡大します。

- 【液晶モニター】に現在の倍率が表示されます。
- [DISP] を押すと、倍率などの表示のオン/オフができます。



3. $\text{[▲]}[\▼]$ で拡大した画像を上下左右にスクロールすることができます。

4. [MENU] を押すと、画像は元の大きさに戻ります。

重要! ● 動画は拡大表示できません。
● 画像のサイズにより、8倍までの拡大表示ができない場合があります。

画像サイズを変える(リサイズ)

撮影した静止画像のサイズを、次の3種類のサイズに変えることができます。

- 1600 × 1200 pixelsのLXGAサイズ
- 1280 × 960 pixelsのSXGAサイズ
- 640 × 480 pixelsのVGAサイズ

●VGAサイズの画像は、メールに添付する画像やホームページに貼り付ける画像に最適です。

1. **PLAY**モードにして**[MENU]**を押します。

2. “再生機能”タブ→“リサイズ”を選び、**[▶]**を押します。



3. **[◀][▶]**でサイズを変えたい画像を表示させます。

4. **[▲][▼]**でリサイズ内容を選び、**[SET]**を押します。

1600 × 1200 : 1600×1200pixelsのLXGAサイズに変えます。

1280 × 960 : 1280×960pixelsのSXGAサイズに変えます。

640 × 480 : 640×480pixelsのVGAサイズに変えます。

キャンセル : リサイズを中止します。

- 重要!**
- リサイズした画像は、リサイズする前の画像とは別に最新ファイルとして保存されます。
 - 画像サイズが640×480pixels以下の画像はリサイズできません。
 - 画像サイズが2816×1872(3:2)pixelsの画像はリサイズできません。
 - このカメラで撮影した画像以外の画像は、リサイズできません。
 - “このファイルではこの機能は使用できません”と表示された場合は、リサイズできません。
 - リサイズした画像を保存できるだけメモリー容量が残っていない場合は、リサイズできません。
 - リサイズした画像をカメラで表示した場合、日付はリサイズした日付ではなく、撮影した日付が表示されます。

画像の一部を切り抜く(トリミング)

拡大した画像から必要な箇所を切り抜いて、メールに添付する画像やホームページに貼り付ける画像などの構図を整えることができます。

1. **PLAY**モードにして、**[◀][▶]**でトリミングしたい画像を表示させます。

2. **[MENU]**を押します。

3. “再生機能”タブ→“トリミング”を選び、**[▶]**を押します。



- 【液晶モニター】に画像を切り抜くための枠が表示されます。

4. **[ズームレバー]**をスライドさせて、枠の拡大/縮小をします。

- 表示されている画像のサイズによって、トリミングできる枠の大きさが変わります。

5. **[▲][▼][◀][▶]**で切り抜きたい部分を枠で囲みます。

6. **[SET]**を押します。

- トリミングを中止する場合は**[MENU]**を押します。

ピントを確認する

撮影した画像の一部をもっとも解像度が高く見える倍率に拡大し、ピントが合っているかどうかを確認することができます。

1. **PLAY**モードにして、**[◀][▶]**でピントを確認したい画像を表示させます。

2. **[PREVIEW]**を押します。

- 撮影時にフォーカスを合わせたポイントを中心として、画像の一部が拡大されます。



3. **[▲][▼][◀][▶]**でピントを確認したい場所を移動します。

4. **[PREVIEW]**を押すと、元の状態に戻ります。

重要! ●ピントを確認できるのは、静止画像と音声付き静止画像のみです。

- 本機で撮影した画像以外は、ピントを確認することはできません。

動画を再生する

ムービーモードで撮影した動画を再生することができます。

1. **PLAY**モードにして、**[◀][▶]**で再生したい動画を表示させます。



2. **[SET]**を押します。

- 動画が再生されます。
- 動画再生中に、次のような操作ができます。
 - 早戻し/早送りする **[◀][▶]**を押す
 - 再生と一時停止を切り替える **[SET]**を押す
 - 一時停止中にコマ送りする **[◀][▶]**を押す
 - 再生を中断する **[MENU]**を押す
 - 音量を調整する **[▲][▼]**を押す

- 重要!**
- 動画を連続して再生することはできません。再度再生したいときは、もう一度、上の操作を行ってください。
 - 動画の音量調整は、再生一時停止中に可能です。

1つの画面に9つの画像を表示する

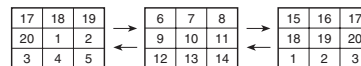
撮影した内容を9つまで同時に一覧表示させることができます。

1. **PLAY**モードにします。

2. **[ズームレバー]**を“**9**”側にスライドさせます。

- 9つの画像が表示され、最初に表示されていた画像は、枠が付いた状態で中央に表示されます。
- 画像の総数が9枚以下の場合は、左上から順に画像が表示されます。枠は1枚目の画像に付きません。
- [◀][▶]**を押して、枠が画面の左端または右端まで行くと、次の9枚を表示します。
- ボイスレコードファイル画像(123ページ)には**[9]**が表示されます。

例：画像の総数が20枚で、1番目の画像を最初に表示していた場合



- 重要!**
- トリミングした画像は最新ファイルとして保存されません。
 - トリミングしても、トリミングする前の画像は残っています。
 - 画像サイズが小さいほどトリミングできる枠の大きさが限定されます。
 - 画像サイズが640×480pixelsの画像では、枠は拡大/縮小できません。
 - 画像サイズが2816×1872(3:2)pixelsの画像はトリミングできません。
 - 動画、ボイスレコードファイル画像はトリミングできません。
 - このカメラで撮影した画像以外の画像は、トリミングできません。
 - “このファイルではこの機能は使用できません”と表示された場合は、トリミングできません。
 - トリミングした画像を保存できるメモリー容量が残っていない場合は、トリミングできません。
 - トリミングした画像をカメラで表示した場合、日付はトリミングした日付ではなく、撮影した日付が表示されます。

3. **[▲][▼][◀][▶]**で画像を見ていきます。

4. **[▲][▼][◀][▶]**以外のボタンを押すと、9画面表示は終了します。

目当ての画像を素早く表示する

1. 9画面表示に切り替えます。

2. **[▲][▼][◀][▶]**で目当ての画像に枠を移動します。



3. **[▲][▼][◀][▶]**以外のボタンを押します。

- 目当ての画像が1枚で表示されます。



カレンダー表示をする

1ヶ月分のカレンダー表示の日付上に、その日に撮影した最初の画像を表示させることができ、見たい画像を素早く探すことができます。

1. PLAYモードにして[]を押します。

- PLAYモードにして[MENU]を押し、「再生機能」タブ→「カレンダー表示」と選んで[]を押しても、カレンダー表示になります。

2. [▲][▼][◀][▶]で目当ての画像に枠を移動します。

- 年/月の表示は「表示スタイル」の設定(137ページ)に従って表示されます。
- 各日付上にその日に撮影した最初の画像が表示されます。
- 枠が上端にあるとき[▲]を押すと前の月の画面に移ります。
- 枠が下端にあるとき[▼]を押すと次の月の画面に移ります。
- カレンダー表示を終えるには[MENU]または[DISP]を押します。
- ボイスレコードファイル画像(123ページ)には[]が表示されます。
- このカメラで表示できないデータの場合は[]が表示されます。



3. 見たい画像に枠を移動させたら、[SET]を押します。

- その日に撮影した最初の画像が表示されます。

画像を自動的にページめくりさせる(スライドショー)

撮影した内容を自動的に次々とページめくりさせる機能(スライドショー)です。ページめくりの間隔を設定することもできます。



1. PLAYモードにして[MENU]を押します。

2. 「再生機能」タブ→「スライドショー」と選び、[]を押します。

3. 各設定項目を設定します。各設定方法については、下記をご覧ください。

表示画像 「表示画像を設定する」(118ページ)
 時間 「時間を設定する」(119ページ)
 間隔 「間隔を設定する」(119ページ)
 キャンセル スライドショーを終了します。

4. [▲][▼]で「開始」を選び、[SET]を押します。

5. [SET]を押すと、スライドショーが終了します。

- 「時間」で設定した時間が経過すると自動的に終了します。

重要! 画面の切り替り中はボタン操作が効かなくなります。画面が静止しているときにボタン操作をしてください。ボタンが効かない場合は、しばらくボタンを押し続けてください。

- 動画は自動的に1回再生します。
- 動画、ボイスレコードファイルは、自動的に音声を1回再生します。
- 音声再生中に[▲][▼]を押して、音量を調整することができます。
- パソコンからコピーした画像や、他のデジタルカメラの画像では、設定した間隔より長くなる場合があります。

表示画像を設定する

1. [▲][▼]で「表示画像」を選び、[]を押します。

2. [▲][▼]で表示内容を選び、[SET]を押します。

- 全画像 : メモリー内にあるすべてのファイルを表示します。
- 1枚画像 : ファイルを一枚のみ選んで表示します。
- お気に入り : お気に入りフォルダ(129ページ)にあるファイルを表示します。

3. [▲][▼]で「開始」を選び、[SET]を押します。

- スライドショーが始まります。
- 音声付き静止画/ボイスレコードでは、音声も再生します。

1枚画像について

「1枚画像」では一枚のみ画像を選んで表示することができます。

1. [▲][▼]で「1枚画像」を選び、[]を押します。

2. [◀][▶]で目的の画像を表示させます。

3. [SET]を押すと、設定を確認してメニュー画面に戻ります。

- [MENU]を押すと設定をキャンセルしてメニュー画面に戻ります。



時間を設定する

1. [▲][▼]で「時間」を選びます。

2. [◀][▶]で再生したい時間を選び、[SET]を押します。

- 時間は1~60分の間で指定できます。

3. [▲][▼]で「開始」を選び、[SET]を押します。

- スライドショーが始まります。

間隔を設定する

1. [▲][▼]で「間隔」を選びます。

2. [◀][▶]でスライドショーの間隔を選び、[SET]を押します。

- 間隔は「最速」と1~30秒の間で指定できます。
- 間隔を「最速」に指定したとき、動画は先頭のコマのみを再生します。

3. [▲][▼]で「開始」を選び、[SET]を押します。

- スライドショーが始まります。

回転表示させる

画像の回転情報(向き)を画像ファイルに書き込むことができます。再生時には回転情報をもとに画像を表示することができます。縦置きで撮影した画像や、回転させたい画像に使用すると便利です。

1. PLAYモードにして[MENU]を押します。

2. 「再生機能」タブ→「回転表示」と選び、[]を押します。

3. [◀][▶]で回転させたい画像を表示させます。

4. [▲][▼]で「回転」を選び、[SET]を押します。

- 「回転」を選んだ状態で[SET]を押すたびに、90°ごとに右まわりに回転します。



5. [MENU]を押して、設定を終了します。

- 重要!** メモリープロテクトをかけたファイルは、回転することはできません。メモリープロテクトを解除してから操作してください。
- 他のデジタルカメラで撮影した画像では、回転できない場合があります。
 - 動画/ボイスレコードは回転表示できません。

画像ルーレット機能を使う

カメラ内の画像を【液晶モニター】でルーレットのように送りながら1枚の画像を選択していく機能です。画像ルーレットがスタートすると画像はランダムに選択されて送られます。最初は速く送り、徐々に送る速度をゆるめていき、最後に1枚の画像を選択して止まります。最後に選択される画像がどれになるかはわかりません。全く規則性がありません。

1. 電源が切れている状態で、[◀]を押したまま【電源ボタン】を押して電源を入れます。

- [◀]は【液晶モニター】が表示されるまで押し続けてください。
- 画像ルーレットが開始され、最後に1枚の画像が選択され止まります。

2. [◀][▶]を押すと、画像ルーレットを再開します。

3. 【モードダイヤル】を回してRECモードにするか、【電源ボタン】を押して電源を切ると、画像ルーレット機能は終了します。

重要! ● 動画やボイスレコードファイル画像は画像ルーレットの対象となりません。

- 静止画が1枚だけの場合は、画像ルーレット機能に入りません。
- カメラで撮影した画像がルーレットの対象となります。他の画像が入っていると、画像ルーレット機能が動作しない場合があります。
- 画像が停止してから約1分以上、次の画像ルーレットを開始しないと、通常のPLAYモードになります。

画像に音声を追加する (アフターレコーディング機能)

アフターレコーディング機能(アフレコ)により、撮影済みの画像に音声を追加することができます。また、音声付き画像(マイク)が表示される画像)に録音された音声を、記録し直すことができます。

- 録音形式：WAVE/ADPCM記録形式
音声を録音するためのWindows標準フォーマットです。拡張子は“.WAV”となります。
- 録音時間：1画像につき最長約30秒間
- 音声ファイルサイズ：
約120KB(約4KB/秒で30秒間録音時)

1. PLAYモードにして、[◀][▶]で音声を追加したい画像を表示させます。
2. [MENU]を押します。
3. “再生機能”タブ→“アフレコ”を選び、[▶]を押します。



121

4. [シャッター]を押して、音声を録音します。
5. [シャッター]を押すか約30秒経つと録音を終了し、音声を記録します。

音声を記録し直す

1. PLAYモードにして、[◀][▶]で音声を記録し直したい画像を表示させます。
2. 音声追加(アフレコ)の手順2~3(121ページ)と同じ操作により“アフレコ”を選び、[▶]を押します。
3. [▲][▼]で“消去”を選び、[SET]を押します。
 - 音声を消すだけにしたいときは、上の手順3操作後に[MENU]を押してください。
4. 音声追加(アフレコ)の手順4~5と同じ操作により、音声を録音します。
 - 前に録音していた音声が消え、新しい音声が録音されます。

122

重要! ● カメラ前面部にある【マイク】を必ず対象に向けてください。
● 指などで【マイク】をふさがないようにご注意ください。

【マイク】



- 録音の対象がカメラから遠くに離れると、きれいに録音されません。
- 録音中にボタン操作をすると、操作音が入ることがあります。
- 音声を追加した画像には、マイク(音声アイコン)が表示されます。
- メモリー容量が少ないときは、録音できない場合があります。
- 次の場合は音声を追加することはできません。
 - ムービー画像に音声を追加しようとした場合
 - 画像にメモリープロテクトがかかっている場合(128ページ)
- 音声を記録し直した場合または音声を消去した場合、前に録音していた音声が消え、二度と元に戻すことはできません。音声を記録し直す際は、よく確かめてから行ってください。

音声を再生する

ボイスレコードファイルに録音した音声を再生します。

1. PLAYモードにして、[◀][▶]で再生したい音声が録音されたボイスレコードファイル(マイク)が表示される画像を表示させます。

2. [SET]を押します。

- ボイスレコードファイルの音声がスピーカーから再生されます。



- 音声再生中に、次のような操作ができます。
 - 音声を早戻し/早送りする [◀][▶]を押し続ける
 - 再生と一時停止を切り替える... [SET]を押す
 - 音量を調整する [▲][▼]を押す
 - 再生を終了する [MENU]を押す

重要! ● ボイスレコードファイルの音量調整は、再生/一時停止中に可能です。

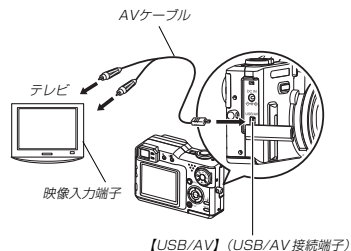
- 録音時にマーキング操作を行ったボイスレコードファイルでは、一時停止中に[◀][▶]を押すことにより、マークを付けた位置まで再生位置を移動させることができます。続けて[SET]を押すと、マークを付けた位置から再生を始めることができます。

テレビに画像を映し出す

カメラで撮影した内容や撮影中の表示を、テレビの画面に映すことができます。テレビの画面に映すには、本機と映像入力端子を備えたテレビを付属のAVケーブルで接続します。

1. 付属のAVケーブルでカメラの【USB/AV】(USB/AV接続端子)とテレビの映像入力端子を接続します。

- AVケーブルの黄色プラグをテレビのビデオ端子(黄色)に、AVケーブルの白色プラグをテレビの音声端子(白色)に接続してください。
- 音声はモノラルとなります。



123

2. テレビの映像入力を“ビデオ入力”に切り替えます。
3. 以降、本機で再生や撮影の操作を行ってください。

重要! ● 【液晶モニター】に表示されるアイコンなどは、そのままテレビ画面に表示されます。
● ビデオ出力時にカメラの【液晶モニター】は消灯します。

ビデオ出力の方式を変更する

本機はビデオ出力の方式に合わせて、出力信号を変更することができます。ビデオ出力方式には、NTSCとPALの2種類があります。

1. RECモードまたはPLAYモードにして[MENU]を押します。
2. “設定”タブ→“ビデオ出力”を選び、[▶]を押します。
3. [▲][▼]で設定内容を選び、[SET]を押します。
NTSC：日本やアメリカなどで使用している方式です。
PAL：ヨーロッパなどで使用している方式です。

124

消去する

ファイルを消去する方法には次の2つの方法があります。

1ファイル：ファイルを1ファイルずつ消去する。
全ファイル：すべてのファイルを消去する。

- 重要!** ●一度消去してしまった記録内容は、二度と元に戻すことはできません。消去の操作を行う際は、本当に不要なファイルかどうかをよく確かめてから行ってください。特に全ファイル消去の操作では、記録したすべての内容を一度に消去してしまいますので、内容をよく確かめてから操作してください。
- メモリープロテクトのかかったファイルは消去できません。メモリープロテクトを解除してから操作してください(128ページ)。
 - すべてのファイルがメモリープロテクト(129ページ)されている状態では、消去は実行できません。
 - 音声付き静止画を消去すると、画像ファイルと音声ファイルの両方を消去します。

1ファイルずつ消去する

1. PLAYモードにして
[EX 冪]を押します。



2. [◀] [▶]で消去したいファイルを表示させます。

3. [▲] [▼]で“消去”を選びます。

- 消去を中止したいときは、“キャンセル”を選んでください。

4. [SET]を押して、表示しているファイルを消去します。

- 手順2~4を繰り返して、他のファイルを消去することができます。

5. [MENU]を押して、消去操作を終了します。

- 重要!** ●消去できないファイルを消去しようとすると、“このファイルではこの機能は使用できません”と表示されません。

125

消去する

すべてのファイルを消去する

1. PLAYモードにして[EX 冪]を押します。

2. [▲] [▼]で“全ファイル消去”を選び、[SET]を押します。

3. [▲] [▼]で“はい”を選びます。

- 消去を中止したいときは、“いいえ”を選んでください。

4. [SET]を押して、すべてのファイルを消去します。

- すべてのファイルが消去されると、“ファイルがありません”と表示されます。

126

ファイルの管理について

本機では画像の撮影や再生の他、ファイルの消去防止等の設定ができます。

フォルダの分類について

本機は内蔵フラッシュメモリーやメモリーカード内に、フォルダ(ディレクトリ)を自動的に作成します。

メモリー内のフォルダ/ファイルについて

撮影した画像は連番を名前としたフォルダの中に自動的に記録されます。フォルダは最大900作成されます。フォルダ名は次の通りです。

例：連番100のフォルダ名

100CASIO
連番(3桁)

各フォルダには最大9,999番までのファイルが登録できます。10,000枚以上撮影した場合は、次の連番のフォルダが自動的に作成されます。ファイル名は次の通りです。

例：26番目に記録したファイル名

CIMG0026.JPG
拡張子
連番(4桁)

- 保存できるフォルダ数、ファイル数はサイズや画質、またはメモリーカードの容量によって異なります。
- 詳しいディレクトリ構造に関しては「メモリー内のディレクトリ構造」(166ページ)をご覧ください。

127

ファイルの管理について

記録したファイルにメモリープロテクト(消去防止)をかける

大事なファイルを誤って消去してしまうことを防止する機能(メモリープロテクト)がついています。メモリープロテクトをかけたファイルは、消去操作(125ページ)により消去することはできません。メモリープロテクトのかけかたには、1ファイル単位、全ファイルの2通りがあります。

1ファイル単位でメモリープロテクトをかける

1. PLAYモードにして[MENU]を押します。

2. “再生機能”タブ→“プロテクト”と選び、[▶]を押します。



3. [◀] [▶]でメモリープロテクトをかけたいファイルを表示させます。

128

4. [▲] [▼]で“オン”を選び、[SET]を押します。

- メモリープロテクトがかかり、ONが画面上に表示されます。
- メモリープロテクトを解除するときは、“オフ”を選んでください。



5. [MENU]を押して、メモリープロテクトを終了します。